

令和5年度
男女共同参画宣言都市事業

男女共同参画に関する一行詩

入賞作品集

男女共同参画都市宣言

社会のあらゆる場で 男女の人権は 互いに尊重されることが必要です
私たち山形市民は 真のパートナーシップの実現を目指し
さまざまな分野に 男女が平等に参画できる社会を創ります
次代を担う子どもたちに ともに信頼し支え合う大切さを伝え
市民一人ひとりが 力強く歩み続けることを誓い
ここに 山形市は 男女共同参画都市の宣言をします

平成10年9月 山形市



大学・一般の部(応募総数145作品)

最優秀賞

「女性でその仕事に就くなんて聞いたことない。無謀だよ。」
そう。それならちようどいい。
女性として一番乗りになってみせる。
そして、そんな言葉、もう言わせない。

大橋 茉透衣(山形大学)

優秀賞

私の友人は女性だ
私の友人は男性の心をもっている
私の友人は性別問わずみんなと仲がいい
私の友人は自分を偽らない
私の友人はとても素敵なんだ
そんなあなたに私はなりたい

安達 謙太(東北文科大学)

優秀賞

『かわいい我が子の成長を見逃してなるものか』
と働きながら育児に奮闘した父。
そんな父を「世界一の父親」と嬉しそうに語る母。
そんな母を見て私もまた
『世界一の父親』に憧れる。

藤原 駿(東北文科大学)

入選

当たり前だと思っても本当にそうかな。
男だから、女だから、その一言で片づけてはいけない。
あなただから任せられる。その一言こそ当たり前。
白山 裕貴(山形大学)

入選

“おふくろの味”も大好きだが、
“おやじの味”も食べてみたいな。
男女で繋いでいこう我が家の味。

高橋 歩夢(山形大学)

入選

みんなが「自分」を大切に
それぞれ大切な「自分」を
みんなで守る
そんな世界になつたらいいね

片桐 のどか(東北文科大学)

入選

性に関するニュースが多いなと、
テレビやスマホを見て毎回思う。
特に、女性に対する性的暴力・虐待が最も多い。
女性に対する暴力・虐待を減らすため、
男性が犯行をおささないようにするため、
男と女、どちらの面からも考えた対策が増えるといいな。
暴力や虐待のない世の中が理想。
一人一人が性について気をつけながら生活してほしいものだ。

梅津 理央(山形厚生看護学校)

入選

赤と黒のランドセルは去りました。
今やクレヨンみたいにカラフルです。
コスメ売り場をのぞいて見て“見て”
男性化粧品ずらりと広い!!
制服だってお好み次第、
わたしパンツ好き、僕スカートはきたい。
境界線は遠い昔の語り草。

加藤 桂子(山形市)

審査員からのコメント

性別に関わりなく、個性と能力を発揮することが出来る社会、つまり不平等をなくせばおのずと女性活躍も進んでいく。作品を通して感じられる意識の高さ、日本の女性活躍ジェンダーギャップ指数、今より上がってくるのでは。頼もしい限りです。

塩野優子 審査員

中学・高校の部 (応募総数808作品)



全てを理解することは難しくても理解しようとする心があればもっと見える世界が広がっていく。

佐々木 遥(山形北高3年)

審査員からのコメント

世界では戦争や紛争が絶えず、立場や考え方が違う者同士が理解し合うことは、本当に難しいことだと思います。しかし、私たち人間は、この困難さを乗り越え、必ず理解し合える社会を創造できるものと信じています。

本作品を読み、多様性の尊重はもとより、小さな理解を積み重ねていくことの大切さについて、改めて考えてみることでできました。本作品は、あたたかくて寛容な社会の実現に向けた大切な心の在り方を教示しています。

武田喜好 審査員



お母さんがいそがしい時にはお父さんお父さんがいそがしい時にはお母さん何も言わずに家事をしている私の家族にありがとう。

調所 優有(第五中3年)



料理を作るのが得意なのは母ケーキを作るのが得意なのは父得意、不得意あるなら分担しながらやればいい

まかせ、まかされ、男女共同参画

佐藤 あゆむ(山大附属中3年)



一人ひとりの「好き」
一人ひとりの「得意」
みんな色は違うけど、
違うからこそ新しい色になれる
私達のこの手と手を取りあって
色で溢れる素敵な未来を
みんなでつくっていきこう

渡邊 姫空(山形西高1年)

入選

男女でわかる
 そんな世界はもうおわり
 みんな同じ人だけで
 みんな違う人として
 この世界を生きていく

荒井 ひなた(第五中3年)

入選

赤ちゃんは
 お母さんにも
 お父さんにも
 育てられたい
 それが子育てなんじゃないかな

山口 紗奈(第七中2年)

入選

わたしはあなたを尊重する
 あなたはわたしを思いやる
 分かち合うことで
 考えや喜びを共有できる
 それが世界のスタンダード

木村 悠里(山形東高1年)

入選

髪が短くて、ズボンをはいている
 それだけで男子と間違われずに、
 名前や顔などをちゃんとみてほしいな

遠田 彩月(第五中3年)

入選

「何、泣いてんだよ。男のくせに」
 「何、いばってんだよ。女は黙ってる」
 そんなことを言われたら
 自分らしさがなくなってく
 「大丈夫?」「いいね!」が
 あふれる一人ひとりが輝ける世界へ

吉田 愛佳(第八中1年)

入選

「男性」「女性」どうして2つの箱に
 分けてしまうんだろう
 私が私であること
 あなたがあなたであること
 それが何より大切なこと
 箱を開けて
 待っているのは 広く豊かな社会

大原 恵(山形西高1年)

入選

自分の生きたい性でいよう。
 いつかその性が認められる
 明るい未来があるから。
 明るい未来をつくることが
 私たちの使命だ。

矢ノ目 友彩(第六中3年)

入選

服の柄 心の柄 人の柄
 どれもみんな違うから。
 お互いを認め、寄り添い合う。
 そんな社会を
 私達の手で

大坂 彩(金井中2年)

入選

国も学校も家も。
 先頭に立つ人は
 男性だけじゃない。
 誰にでも今を、未来をつくる
 権利はある。

近野 莉菜(山形商業高2年)

入選

「家庭の味は何ですか?」と聞かれ
 今まで思い出すのは母の味。
 でも今は、休日にみんなで作った
 カレーの味。

土屋 叶(山形商業高3年)



佳作

「料理ぐらいできないとね」と私に
「今の時代男もできないとね」と兄に
母が言っ

やるかやらないかで見方が変わる。

安孫子 真依(高橋中1年)

佳作

男女関係なく家事をしたり
性別関係なく活動したり
一人一人が助け合い輝いている
そんな社会を

私たちがつくっていききたい

橋本 れい(山大附属中3年)

佳作

男らしさ、女らしさ、親らしさ、子供らしさ
いろいろな「らしさ」があるけれど
私は「人間らしさ」を磨きたい そうすれば
「あなたらしさ」も「私らしさ」も
尊重できると思うから……

藤本 唯愛(山大附属中3年)

佳作

「いろんな色があるだねえ」

鮮やかに並ぶランドセルを見て

おばあちゃんが言った言葉

昔は男の子が黒で女の子が赤だったらしい

「自分らしさ」を大切に作る社会が

これからも広がってほしいな

大場 みゆ(山形東高1年)

佳作

好きな物は好きだし、好きな人は好き
自分の好きを大切に、自分で自分を
殻に閉じこめないで、分かってくれる人は
きっといる

高梨 真衣(山形商業高2年)

佳作

始めて話す
わが子の言葉
「ママ」かな「パパ」かな
どっちかな
2人で競い 2人で育てる
そんな育児はすてきな。

庄司 愛蘭(山形商業高3年)

佳作

自分らしく生きたい
そう思うけれど
まだ自分らしさがわからない
いつか見つけた自分らしさを

山川 楓(山形商業高3年)

佳作

宇宙に旅行へ行く時代になっても、
私たちはまだ差別が残る時代。
未来のために男女が学ぶのに、
女性はまだ認められることが少ない。
世界は進歩してるのに……
明るい未来を期待したい。

大崎 琴乃(東海大山形高1年)



入賞作品総評

柿崎 悦子 審査員代表(山形大学ダイバーシティ推進室副室長准教授)

今年度は、応募総数953作品となり、中学・高校の部で808作品、大学・一般の部では145作品の応募がありました。多くの作品をお寄せいただいたことに感謝申し上げます。また、入賞者の皆様には心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。多くの作品から、男女共同参画社会を目指す若い年代の方たちの将来への期待や関心の高さを読み取ることができました。その期待や関心は、今後、社会を変容させる大きな推進力となるでしょう。審査員は明るい未来を感じております。

作品は、年齢が上がると共に家族から社会へと視点に変化し、それはとりもなおさず社会での経験値に因るものであり、今後の生活の中でより多くの経験をして視野を広げ感性を磨いてほしいと願います。また、固定的性別役割分担意識や無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)に関する作品と同じく、多様な性についての作品も多くみられました。性別によらず一人一人が活躍できる社会の創造に力を注いでいただきたいと期待いたします。

男女共同参画社会の基盤は、人と人との関わりの中で、その違いを認め、相手を尊敬し大切に思う寛容な社会であることです。第4次山形市男女共同参画計画「いきいき山形男女共同参画プラン」の基、市民の皆様が、いきいきとした毎日を過ごすことができますよう祈念いたします。

佐藤 孝弘 山形市長

山形市では、平成10年9月に県内初、全国で14番目となる「男女共同参画都市宣言」を行い、平成25年3月には男女共同参画推進条例を制定し、誰もが性別にかかわらず個性と能力を発揮することのできる、男女共同参画の実現に向け、様々な事業に取り組んでまいりました。

男女共同参画に関する一行詩の募集は、社会における男女共同参画の意識啓発を行う取り組みの一環として、平成13年度より実施しており、今年度も幅広い年代の方から数多くの作品をお寄せいただきました。ご応募いただいた皆様方、また学校関係者の方々に対し、心より感謝申し上げます。

このたびの入賞作品は、家事や育児に対する意識や性別による固定的役割分担に対する想い、自分らしさである「個性」に着目した作品など、いずれの作品も、山形市における男女共同参画に対する意識が浸透していること、性の多様性についての理解の高まりを実感するものであり、大変嬉しく思っております。

今後とも、市民、事業者及び関係団体の皆様と手を携えながら、「男女共同参画のまち山形」を目指して様々な取り組みを進めて参りますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

審査員一覧

(順不同、敬称略)

山形市男女共同参画審議会会長 山形大学ダイバーシティ推進室副室長 准教授

山形市男女共同参画審議会委員 山形市立西小学校長

山形市男女共同参画審議会委員 山形市女性団体連絡協議会

山形市企画調整部長

山形市企画調整部次長(兼)男女共同参画センター所長

柿崎 悦子

武田 喜好

塩野 優子

畑口 和久

高橋 真枝